どうしん夢プロジェクト 広告企画

ミュンヘン大橋など
札幌市内にサンタの影
読者からの投稿写真で発覚

やはりサンタは札幌に来ていた――。そう思わせる写真の存在が明らかになった。8日、サンタ捜索チームは、「サンタとおぼしき影」が写った写真があったと発表。追跡調査の結果、市内各地で続々とサンタやトナカイの目撃情報が相次いでいることを明らかにした。

写真を投稿した南区在住の男性によると、昨年のクリスマス当日の深夜、橋の付近を愛犬と共に散歩していた途中でミュンヘン大橋を撮影。帰宅後、写真を見たところ、サンタのようなシルエットの影が写真に写り込んでいることを発見し、捜索チームへ写真を送ったという。その情報を受け、捜索チームが調査を進めた結果、当所以外でもサンタやトナカイとおぼしき姿が目撃されていたことが明らかになった。

写真に写っていたのは、暗闇を駆け抜けるように走り去る人の影。影を拡大して見てみると、そりのような乗り物やトナカイのような動物も見えた。「あの夜はとても寒くて、犬の散歩も早く切り上げようと思っていました。でも、いつも通っているはずのミュンヘン大橋がとても美しく見えたので、何げなく写真を撮影したのです。まさかあんな影が写っていたなんて、今でも信じられません」。撮影当時を振り返り、現場は光に包まれたなどの特殊現象はなかったが、「そういえば、シャンシャンと音がした気がする」と男性は語ってくれた。

サンタ捜索チームが、男性からこの投稿を受けたのは、今年8月。早速、専門機関に分析を依頼。その結果、同写真は合成などの加工した形跡は見受けられなかった。

大通公園、百合が原公園でも

サンタと思われる人物の目撃情報があったのは、ミュンヘン大橋だけでないことが判明した。同チームの発表によると、目撃情報が寄せられたのは、大通公園西11丁目にそびえ立つモニュメント「マイバウム」周辺。友好の証として姉妹都市ミュンヘンから贈られたこのモニュメントの付近で、昨年12月中旬から下旬にかけて、サンタ風の老人のくつろぐ姿が多数目撃されているという。また、旭山記念公園（中央区）の「ミュンヘンの森」や、百合が原公園（北区）の「ミュンヘン庭園」では、トナカイのような動物の姿が目撃されている。

サンタ捜索チームは、専門家との度重なる検証の結果、「ミュンヘン」がキーワードとなっているのではと推測。「今年、札幌市とドイツ・ミュンヘン市は姉妹都市提携40周年。サンタがその事実を知っており、祝福の意味も込めて、市内のミュンヘンにゆかりのある場所を訪れてくれているのではないか」と見解を発表した。そして、「律義なサンタは、〝本業〟の合間に、再度ミュンヘンとつながりのある場所を訪れてくれる可能性は高い」と推測している。

男性から投稿のあった、サンタと思われる影が見られる謎の写真
＝2011年12月24日、札幌市豊平区のミュンヘン大橋付近

どうしん夢プロジェクト 広告企画
クリスマス市を大捜索
聞き込み強化、ドイツに特捜班派遣も

同チームが捜索中の「ミュンヘン・クリスマス市」（写真は2011年）

12月1日から、サンタ捜索チームはミュンヘン・クリスマス市での聞き込み調査をスタートさせた。昨年も同会場にて実施した際、複数の有力情報の入手に成功していることから、今年も何か手掛かりをつかめるのではないかと意気込んでいる。「昨年は、ミュンヘンと関連するスポットに、サンタが頻繁に姿を見せている。この会場にサンタが姿を現さない訳がない」。

ミュンヘン・クリスマス市が始まったのは、札幌とミュンヘンが姉妹都市提携30周年を迎えた2002（平成14）年。ミュンヘンのことをもっと札幌市民に知ってもらうために開催された。同イベントは、今年で11回目を迎え、今ではすっかり札幌の冬の風物詩となっている。

クリスマス市は、本場ドイツでは、どこの街でも見かける光景。開催されるのは、クリスマス前の4週間。キリストの到来を準備するこの期間には、飾りやうそく、お菓子などを販売する屋台を目当てに、街は多くの人であふれるという。

札幌の会場においても、雑貨や工芸品などを扱うお店、ドイツ料理やお菓子のお店が軒を連ねており、本場さながらの雰囲気。なお、今年はミュンヘンとの姉妹都市提携40周年ということもあって、「地下歩行空間会場」「サッポロファクトリー会場」「さっぽろテレビ塔会場」と三つのサテライト会場でもさまざまなイベントが開催されている。そこで捜索チームは、4班体制を取り、手分けして聞き込みに当たっているという。

また、捜索チーム内では「やはり、本場ミュンヘンのクリスマス市に、捜索の突破口となるような手掛かりがあるのでは」という声もあり、特捜班「S・A・N・T・A」をドイツに派遣することも検討している。

よみがな入り紙面のダウンロードや過去紙面閲覧も！
サンタ捜索WEB公開中
ケータイ・スマホから
Facebookもチェック！ http://www.facebook.com/santa.search.web/

どうしん夢プロジェクト 広告企画
立寄りやすい環境
二つの北の街、サンタが親近感か

「今年もぜひ札幌へ来て」とサンタへの思いを語る長町さん

札幌がミュンヘンと姉妹都市であることは有名だが、その詳しい背景について調べると、サンタにつながるヒントが隠されているかもしれない。そこで、札幌がミュンヘンと姉妹都市提携を結んだ経緯などを調べるべく、同チームは札幌市役所に行き、調査を開始した。

「もともと、緯度や人口など共通点も多く、交流も頻繁に行われていたこともあって、1972（昭和47）年8月28日に姉妹都市提携調印式を実施。以来、40年にわたって、芸術・文化・スポーツなどさまざまな分野で交流を図ってきました」。そう話すのは、ミュンヘン市との姉妹都市提携事業を担当する札幌市国際部・長町翔太（ながまちしょうた）さん「40年前は、札幌とミュンヘンが、それぞれ冬季・夏季オリンピックの会場となり、世界にその名を知られた記念すべき年。同じ年にオリンピック開催の地となったことに、なんだか運命的なものも感じますよね」と、笑顔で話す。

最近サンタが市内で目撃されている事実については、「初めて聞きましたが、ミュンヘンとゆかりのある場所を次々と訪れてくれてとてもうれしいですね。札幌は雪が多く、赤レンガの建物も多い。サンタはふるさとを思い出したのでしょうか」と首をかしげつつも、「札幌は、都市機能が発達している一方で、周囲は山々に囲まれており、自然がとても豊か。トナカイも居心地が良いのかもしれませんね」と語ってくれた。そして、「札幌を語る上で外せないのが、食事ですよね。ぜひ、サンタにはジンギスカンを食べてほしいなぁ。どんな感想を持つかぜひ聞いてみたいですね」とほほ笑む。

最後に、札幌とミュンヘンの深いつながりを肌で感じられる催しとして、長町さんが薦めてくれたのが、ミュンヘン・クリスマス市。12月24日まで大通公園で開催されているが、今年はクイズラリーや写真パネル展など特別なイベントも用意されているという。本場クリスマスの雰囲気が存分に味わえる会場に、一度足を運んでみてはいかがだろうか。

クリスマス連載コラム X Santa（クロス・サンタ）

聖夜のナイトクルージング

「やっぱりクリスマスは好きな人と過ごしたい！」この季節、こんな幸せな声を耳にすることも多いだろう。好きな人と時間を過ごすなら、ドライブデートがよいだろう。この季節の札幌は、中心部ではホワイトイルミネーション、少し足を伸ばせば銀世界と、美しい景色が広がっているが、外は寒い。車があれば、寒さを避けながら札幌市内に点在する絶景を堪能できる。また、2人で車内という限られた空間で過ごすため、相手の意外な点を発見できたり、自分の長所を存分にアピールするチャンスもある。

ドライブデートでは、お気に入りの音楽をバックに、ロマンチックなスポットを目指すのもよい。例えば、展望台などに車を止め、夜景を眺めながら、大切な人とサンタを探すという楽しみ方もある。

ドライブの締めくくりは、食の名店へ。味どころ・北海道を代表するお店は、札幌中心部はもちろんのこと、車だからこそアクセスしやすい、駅から離れた場所や郊外に位置していることも少なくない。絶品のグルメに舌鼓を打てば、おいしい記憶とともに、きっと忘れられないクリスマスになるはずだ。

企画制作／北海道新聞社広告局
この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月中旬朝刊予定

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。